

◆周辺環境や人口規模など類似している活用事例

①-1 総合的に考え、複合化する～コミュニティ拠点

◆『あけぼのアート&コミュニティセンター』 ほっかいどう さっぽろし (北海道・札幌市)

●概要

用途：コミュニティ・複合化拠点
 廃校理由：少子化に伴う児童生徒数の減少

●建物

構造：鉄筋コンクリート造地上3階建て
 敷地面積：6,773 m²
 延床面積：3,266 m²

●財源

整備：札幌市
 運営維持管理：利用料、賃貸料

●運営主体

名称：NPO法人コンカリーニョ
 形態：NPO法人

●運営状況

主な利用者：地域住民、芸術家、サークル活動等の参加者
 利用者数：現在まで3,000人程の方が利用（平成21年11月より運営のため）

●アクセス

住所：北海道札幌市中央区南11条西9丁目4-1
 アクセス：地下鉄南北線中島公園駅より徒歩約10分

◆施設の特徴

施設内外では、開放スペースとして、図書室、交流室、ランドがあり、その他、音楽室、交流室、調理スペース、中ホールは一般に貸出が行われている。また、校舎棟2階、3階の全14教室は長期貸出スペースとなっており、文化芸術財団と地域住民の出会いと交流の場として活用されている。

◆運営主体の特徴

NPO法人コンカリーニョが、管理運営を担当し活用運営をしている。

◆使用料その他

<長期貸出スペース>

・貸室A：3m×7m（約6坪）月額賃料18,500円 等

<一般貸出スペース>

- ・体育館：平日（9:00～18:00）1,100円/1時間、平日夜間（18:00～22:00）2,200円/1時間 等
- ・交流室一部：前区分（9:00～12:30）1,500円/区分、午後区分（13:00～17:30）1,500円/区分 等
- ・中ホール：午前区分（9:00～12:30）3,500円/区分、午後区分（13:00～17:30）4,000円/区分 等
- ・図書室、交流室、ランドは、一般開放している。（10:00～18:00）

◆利活用の様子



校舎の外観



体育館の内観



長期利用貸室



交流室（調理スペース）



校舎の内観



図書室

①-2 総合的に考え、複合化する～インキュベーション拠点

◆『西日暮里スタートアップオフィス』^{にしにっぽり} (東京都・荒川区)^{とうきょうと あらかわく}

●概要

用途：ベンチャー企業への貸しオフィス
 廃校理由：荒川区内の生徒数減少

●建物

構造：鉄筋コンクリート造4階建て
 建築面積：680㎡
 延床面積：1,360㎡

●財源

整備：区一般財源
 運営維持管理：オフィス賃貸料、共益費、駐車場賃貸料、等

●運営主体

名称：荒川区地域振興校舎
 形態：財団法人

●運営状況

主な利用者：入居企業
 利用者数：45,700人/年

●アクセス

住所：東京都荒川区西日暮里5-37-5
 アクセス：JR山手線西日暮里駅より徒歩3分

◆施設の特徴

次代を担うベンチャー企業の育成と、本施設を中心とした企業間交流等により、区内産業の一層の活性化を図るため、IT関連産業等で創業をめざす事業者等に低料金で利用できるオフィスを提供している。また、光ファイバーを引くなどして、オフィスとしての機能を整えている。

◆運営主体

財団法人で運営しており、運営維持管理はオフィス賃貸料、共益費、駐車場賃貸料等で管理している。

◆使用料その他

- ・保証料 200,000円(入居時)
- ・賃貸料 10,500円/月(消費税及び地方消費税を含む)
- ・共益費 22,050円/月

(消費税及び地方消費税を含む、共用部分に係る電気料、水道料、清掃費等の相当額)

- ・その他 電気料金、コピー機使用料金実費負担

◆利活用の様子



○入居者の共有スペースの様子



○廊下の両側にオフィスが配置される



○入口ではセキュリティに配慮している

②学習の場としての尊重～教育拠点

◆『岐阜市教育研究所』 (岐阜県・岐阜市)

●概要

用途：岐阜市の教育に関する調査及び研究並びに教育関係者職員の研修
 廃校理由：都市化による団地造成の後、団地地区の高齢化による児童数の減少

●建物

構造：鉄筋コンクリート造 地上4階建
 建築面積：1,926 m²
 延床面積：6,117 m²

●財源

整備：岐阜市の一般財源
 運営維持管理：岐阜市の一般財源

●運営主体

名称：岐阜市教育研究所
 形態：地方公共団体

●運営状況

主な利用者：岐阜市教育関係職員
 利用者数：23,640人／年

●アクセス

住所：岐阜市芥見南山 3-10-1
 アクセス：JR 東海道線岐阜駅より岐阜バス 30分、南山団地下車、徒歩3分

◆施設の特徴

4階建ての校舎全体を、ほぼくまなく利用している。広い駐車場が確保され、冷暖房も完備しており、研修等に良好な施設である。

◆運営主体の特徴

地方公共団体が行っている。

◆利活用の様子



○玄関の様子



○校庭は駐車場として活用



○パソコン室の様子



○職員のリフレッシュ・交流のためのレストルーム

③多世代交流の場～交流体験拠点

◆『大田区区民活動支援施設（こらぼ大森）』（東京都・大田区）

●概要

用途：協働支援施設、区民活動支援施設
 廃校理由：少子化の対応

●建物

構造：鉄筋コンクリート造4階建
 建築面積：1,398㎡
 延床面積：4,855㎡

●財源

整備：大田区
 運営維持管理：指定管理者（NPO法人大森コラボレーション）

●運営主体

名称：大田区、NPO法人大森コラボレーション
 形態：地方公共団体、NPO法人

●運営状況

主な利用者：近隣住民を主体とした大田区民
 利用者数：130,000人/年（全施設合計）

●アクセス

住所：東京都大田区大森西二丁目16番2号
 アクセス：京浜急行本線平和島駅

◆施設の特徴

- ・校舎の内部を改装し、1～2階は調理室、会議室、情報交流室、シルバー人材センター等として利用。
- ・3～4階は、子ども交流センターとして利用。
- ・体育館、グラウンドは区民利用施設として貸し出し。

◆運営主体

平成14年、教育財産から一般財産へ変更され、地元自治会、行政等からなる「施設活用協議会」を設置。翌年、「旧大森第六小学校施設運営準備協議会」が発足し、現在のNPO法人大森コラボレーションへ改組され、運営を実施。

- ・1階（シルバー人材センター、協働支援施設）
 ：社団法人大田区シルバー人材センター、NPO法人大森コラボレーション
- ・2階（協働支援施設）：NPO法人大森コラボレーション
- ・3-4階（大田区設の児童施設）：特定非営利活動法人おおもり子どもセンター

◆利活用の様子



校舎の外観



校舎の内観



情報交流室



情報交流室



利用の様子



体育館の内観

④よそから人に来てもらえるような場～宿泊型交流体験拠点

◆『農村交流施設 森の巣箱』 (高知県・津野町)

●概要

用途：農村交流施設
 廃校理由：過疎化による人口減少

●建物

構造：木造2階建て
 建築面積：456㎡
 延床面積：1,542㎡

●財源

整備：一般財源／県補助
 運営維持管理：利用料及び高知県県補助

●運営主体

名称：森の巣箱運営委員会
 形態：森の巣箱運営委員会

●運営状況

主な利用者：地域住民、県内小学生のスポーツ合宿やゼミ合宿、企業合宿や結婚式客
 利用者数：3,000人／年

●アクセス

住所：高知県高岡郡津野町床鍋 392-2
 アクセス：役場本庁から車で約20分、高知市から車で約1時間20分

◆施設の特徴

- ・「森の巣箱」の運営は、床鍋集落の部落会で選任された者からなる「森の巣箱運営委員会」で運営されているが、仕入れ等の必要経費すべてについては集落住民全員（総人口：約130人）の出資によってなされており、全員がオーナー兼職員となっている。
- ・施設の機能は、一階には集落コンビニ施設や、食堂・居酒屋、浴場があり、二階には宿泊施設がある。集落コンビニでは、食料品や日用雑貨品はもちろん、地域の採れたての野菜や加工品も販売し、住民の「お店がないのでほしい」というニーズに応えるものとなっている。

◆運営主体の特徴

運営は、「森の巣箱運営委員会」が行い、必要経費は集落住民全員の出資である。

◆宿泊料その他

- ・宿泊料：料金/1泊2食付 1名様 5,300円
 1泊素泊まり 3,300円

◆利活用の様子

廃校舎が「森の巣箱」に生まれかわる

～床鍋地区の住民による集落再生への挑戦～

高知県 津野町 森の巣箱運営委員会



旧床鍋小学校は、小さな巣に全国から飛来してくる小鳥たちを迎えることができるようにしようと「森の巣箱」と名付けられた。



昭和58年に廃校となった木造校舎を改装し、集落住民の思い出をそのまま閉じこめ、学校の懐かしい印象を空と空に預けている。



20数年間、集落に店がない状態が続いていたが、森の巣箱に店（コンビニ）が出来たことで、日常生活が非常に便利になり、長年の住民の願いが叶った。

事例の概要

- 住民のアイデアを結集させ、地域のコミュニティ活動の拠点となる「居酒屋」や「集落生協」のほか、地域外の人々との交流を促進するための「宿泊施設」の機能を有する「森の巣箱」を完成させ、交流の拠点となっている。
- 平成16年からは、自然あふれる地域を知ってもらい、地域の環境を保全しようと「ホタルまつり」を住民からの発案で実施しており、今では来場者が1,500人を超え、津野町を代表するイベントに成長している。
- 森の巣箱の運営については、行政の手を借りず地区全員が参加する「運営委員会」を組織するなど、住民自らの手ですべてを行っている。

⑤地域のよりどころの場～安心安全拠点

◆『総合ケアコミュニティ・せせらぎ』（東京都・渋谷区）

●概要

用途：地域交流機能や地域防災機能をあわせもった複合施設
 廃校理由：都市化による人口減少

●建物

構造：鉄骨鉄筋コンクリート 地上7階地下2階
 建築面積：3,828 m²
 延床面積：19,480 m²

●財源

整備：渋谷区の一般財源
 運営維持管理：渋谷区の一般財源

●運営主体

名称：社会福祉法人 渋谷区社会福祉協議会
 形態：社会福祉法人

●運営状況

主な利用者：高齢者、福祉サービス利用者、地域住民
 利用者数：54,431人/年

●アクセス

住所：東京都渋谷区西原1-40-10
 アクセス：京王新線幡ヶ谷下車 徒歩約10分

◆施設の特徴

在宅サービスの中核となる福祉施設や、軽費老人ホームのケアハウス、高齢者用を中心とした区営住宅などのほか、地域交流機能や地域防災機能をあわせもった施設である。

◆運営主体

主体は、社会福祉法人 渋谷区社会福祉協議会であるが、各階の施設がそれぞれの運営を行っている。

- ・地下1階（就労案内事業）
 ：渋谷区社会福祉協議会、社会福祉法人 武蔵野療園、シルバー人材センター
- ・1階（デイサービス、ホームヘルパー事業）
 ：渋谷区社会福祉協議会、社会福祉法人 武蔵野療園
- ・2階（ボランティアセンター、会議室貸館事業）：渋谷区社会福祉協議会
- ・3階（ショートステイ事業）：社会福祉法人 武蔵野療園
- ・4階～7階（ケアハウス事業）：社会福祉法人 武蔵野療園

◆利活用の様子



校舎の外観1



校舎の外観2



校舎の外観3



敷地内のお祭りの様子1



敷地内のお祭りの様子2